

科目名	総合日本語B							
科目名(英)								
単位数	8単位		時間数		120時間	担当者	村上・柴藤	
実施年度	2021年度		実施時期		後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	日本語科(1年)1年							
授業概要	日常的な場面に加え、より幅広い場面において日本語でコミュニケーションができるようになることを目指します。							
授業形式	講義：○		演習：		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○	○				一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解することができる。		
	○	○				日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができる。		
テキスト・教材 参考図書	嶋田和子監修『できる日本語中級』アルク 2018年							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1~6	第1課				授業の前に該当範囲の文法解説書を読み、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	7~12	第2課				授業の前に該当範囲の文法解説書を読み、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	13~18	第3課				授業の前に該当範囲の文法解説書を読み、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	19~24	第4課				授業の前に該当範囲の文法解説書を読み、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	25~30	第5課				授業の前に該当範囲の文法解説書を読み、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	31~36	第6課				授業の前に該当範囲の文法解説書を読み、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	37~42	第7課				授業の前に該当範囲の文法解説書を読み、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	43~48	第8課				授業の前に該当範囲の文法解説書を読み、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	49~54	第9課				授業の前に該当範囲の文法解説書を読み、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	55~60	第10課				授業の前に該当範囲の文法解説書を読み、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
評価方法	(1)確認テスト(筆記)を実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎		◎				50%
	確認テスト	◎		◎				50%
履修上の注意	出席が40回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。							

科目名	会話B						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	村上・柴藤		
実施年度	2021年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(1年)1年						
授業概要	日常的な場面に加え、より幅広い場面において、相手の心情に配慮しながら、適切な語彙や文型を使って的確にコミュニケーションができるようになることを目指す。						
授業形式	講義:	○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		面接などで希望や経験をきちんと言うことができる。	
	○	○		○		友人と旅行の計画やイベントの準備などについて話し合うことができる。	
	○	○		○		準備をしていれば自分のよく知っている話題についてプレゼンテーションができる。	
	○	○		○		相手や状況に応じて丁寧な言い方とくだけた言い方が使い分けられる。	
	○	○		○		関心のあることについて質問したり、意見を言ったりすることができる。	
テキスト・教材 参考図書	加藤早苗監修・秋山信子・坂本舞著 『WEEKLY日本語で話す6週間』 凡人社 2012年						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	自己紹介をする／子供の時のことについて話す				習った会話を実際の場面で積極的に使ってみること(30分)	
	2	いろいろな気持ちを表現する				習った会話を実際の場面で積極的に使ってみること(30分)	
	3	自分の国のお勧めの場所・物を紹介する／人に勧める				習った会話を実際の場面で積極的に使ってみること(30分)	
	4	方法をたずねる・わからないことを聞く				習った会話を実際の場面で積極的に使ってみること(30分)	
	5	意見を言う				習った会話を実際の場面で積極的に使ってみること(30分)	
	6	国のルールやよくないと言われていることについて話す				習った会話を実際の場面で積極的に使ってみること(30分)	
	7	謝る／失敗談を話す				習った会話を実際の場面で積極的に使ってみること(30分)	
	8	写真を説明する				習った会話を実際の場面で積極的に使ってみること(30分)	
	9	相手に忠告する／相手に苦情・文句を言う				習った会話を実際の場面で積極的に使ってみること(30分)	
	10	状況を聞く・答える				習った会話を実際の場面で積極的に使ってみること(30分)	
	11	日本へ来てから変わったことについて話す				習った会話を実際の場面で積極的に使ってみること(30分)	
	12	経験に基づいてアドバイスする				習った会話を実際の場面で積極的に使ってみること(30分)	
	13	自分の体質について説明する(誘い・依頼を断る)				習った会話を実際の場面で積極的に使ってみること(30分)	
	14	うれしかったこと、嫌だったことについて話す				習った会話を実際の場面で積極的に使ってみること(30分)	
	15	準備の相談をする／問い合わせる／予約をする				習った会話を実際の場面で積極的に使ってみること(30分)	
評価方法	(1)定期試験(口述)を実施する。(2)発表(授業への参加状況や発言など)。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	発表				◎		50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	聴解B							
科目名(英)								
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	村上・柴藤	
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験		
対象学科・学年	日本語科(1年)1年							
授業概要	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語が理解できるようになることを目指します。							
授業形式	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができる。		
テキスト・教材 参考図書	中村かおり他『新完全マスターN2聴解』スリーエーネットワーク 2016年							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	「即時応答」のスキルを学ぶ①				教科書付録リスニングCDの該当部分を30分以上聞くこと		
	2	「即時応答」のスキルを学ぶ②				教科書付録リスニングCDの該当部分を30分以上聞くこと		
	3	「課題理解」のスキルを学ぶ①				教科書付録リスニングCDの該当部分を30分以上聞くこと		
	4	「課題理解」のスキルを学ぶ②				教科書付録リスニングCDの該当部分を30分以上聞くこと		
	5	「ポイント理解」のスキルを学ぶ①				教科書付録リスニングCDの該当部分を30分以上聞くこと		
	6	「ポイント理解」のスキルを学ぶ②				教科書付録リスニングCDの該当部分を30分以上聞くこと		
	7	「概要理解」のスキルを学ぶ①				教科書付録リスニングCDの該当部分を30分以上聞くこと		
	8	「概要理解」のスキルを学ぶ②				教科書付録リスニングCDの該当部分を30分以上聞くこと		
	9	「統合理解」のスキルを学ぶ				教科書付録リスニングCDの該当部分を30分以上聞くこと		
	10	模擬試験				教科書付録リスニングCDの該当部分を30分以上聞くこと		
	11	『新完全マスターN1』即時応答				教科書付録リスニングCDの該当部分を30分以上聞くこと		
	12	『新完全マスターN1』課題理解				教科書付録リスニングCDの該当部分を30分以上聞くこと		
	13	『新完全マスターN1』ポイント理解				教科書付録リスニングCDの該当部分を30分以上聞くこと		
	14	『新完全マスターN1』概要理解				教科書付録リスニングCDの該当部分を30分以上聞くこと		
	15	『新完全マスターN1』統合理解				教科書付録リスニングCDの該当部分を30分以上聞くこと		
評価方法	(1)中間試験(筆記)を1回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎		◎				50%
	中間試験	◎		◎				50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。							

科目名	作文										
科目名(英)											
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		村上・柴藤		
実施年度	2021年度		実施時期		後期		担当者実務経験				
対象学科・学年	日本語科(1年)1年										
授業概要	作文を書くことに慣れ、最終的に400字以上で自分の意見や主張を論理的に表現できるようになることを目指します。										
授業形式	講義：○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○				知っている言葉や文法を正確に使うことができる。					
	○	○				効果的な構成と適切な表現で文章を書くことができる。					
	○	○				課題に沿って説得力のある根拠とともに自分の意見や主張を論理的に表現できる。					
テキスト・教材 参考図書	日本語教育教材開発委員会 『学ぼう！にほんご 作文練習帳』 専門教育出版 2018年										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	わかりやすく相手に伝える					授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)				
	2	感情を豊かに表現する					授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)				
	3	原因や理由を表す					授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)				
	4	否定の意味をやわらかく表現する					授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)				
	5	出来事を5W1Hで伝える					授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)				
	6	時間の経過を伝える					授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)				
	7	2つの物事を比較する					授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)				
	8	自分の考えを主張する					授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)				
	9	さまざまな角度から物事を考える					授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)				
	10	事実をもとにアドバイスする					授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)				
	11	場面を仮定して意見を述べる					授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)				
	12	将来を予測する					授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)				
	13	自分の経験をもとに主張する					授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)				
	14	物事を比べながら主張する					授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)				
	15	時事問題について考えを書く					授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)				
評価方法	(1)宿題を数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	
	定期試験	◎		◎						50%	
	宿題	◎		◎						50%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。										

科目名	読解B										
科目名(英)											
単位数	2単位			時間数	30時間		担当者	村上・柴藤			
実施年度	2021年度			実施時期	後期		担当者実務経験				
対象学科・学年	日本語科(1年)1年										
授業概要	一般的な話題に関する読み物や、幅広い話題について書かれた論旨が明快な文章を読んで、文章の内容や話の流れ、表現意図などが理解できるようになることを目指します。										
授業形式	講義：○			演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○				身近で日常的な話題についての文章を読んで、内容が理解できる。					
	○	○				関心のある話題についてのやや専門的な文章を読んで、内容が理解できる。					
	○	○				物語やエッセイを読んで、登場人物の心理や筆者の言いたいことがわかる。					
テキスト・教材 参考図書	田代ひとみ他『新完全マスターN2読解』スリーエーネットワーク 2011年										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	対比					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(30分)				
	2	言い換え					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(30分)				
	3	比喩					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(30分)				
	4	疑問提示文					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(30分)				
	5	主張表現					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(30分)				
	6	指示語を問う					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(30分)				
	7	「だれが」「何が」「何を」を問う					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(30分)				
	8	下線部の意味を問う					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(30分)				
	9	理由を問う					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(30分)				
	10	例を問う					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(30分)				
	11	内容理解(中文)					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(30分)				
	12	内容理解(長文)					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(30分)				
	13	統合理解					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(30分)				
	14	情報検索					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(30分)				
	15	模擬試験					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(30分)				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)中間試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	評価割合
	定期試験	◎		◎							50%
	中間試験	◎		◎							50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。										

科目名	文字語彙B						
科目名(英)							
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	村上・柴藤
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	日本語科(1年)1年						
授業概要	日常的な場面で使われる日本語を理解するのに必要な語彙を学ぶ。						
授業形式	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				一般的な話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論などを読むのに必要な語彙が使えるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	中島智子他『スピードマスターN2語彙』Jリサーチ出版 2011年						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1・2	ウォーミングアップ				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(30分)	
	3・4	1～4				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(30分)	
	5・6	5～8				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(30分)	
	7・8	9～12				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(30分)	
	9・10	13～16				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(30分)	
	11・12	17～20				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(30分)	
	13・14	21～24				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(30分)	
	15・16	25～28				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(30分)	
	17・18	29～32				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(30分)	
	19・20	33～36				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(30分)	
	21・22	37～40				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(30分)	
	23・24	41～45				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(30分)	
	25・26	第1回模擬試験				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(30分)	
	27・28	第2回模擬試験				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(30分)	
	29・30	第3回模擬試験				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(30分)	
	評価方法	(1)中間試験(筆記)を1回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験		◎	◎				50%
中間試験		◎	◎				50%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	文法B							
科目名(英)								
単位数	2単位		時間数	40時間		担当者	村上・柴藤	
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験		
対象学科・学年	日本語科(1年)1年							
授業概要	日常的な場面に加え、より幅広い場面で使われる日本語を理解するために必要な文法を学びます。							
授業形式	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○					日常的によく使われている文型が実際にどのように使われているかがわかる。		
		○				日常的によく使われている文型が実際に使えるようになる。		
テキスト・教材 参考図書	アジア学生文化協会 『TRY!N2』 アスク出版 2016年							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1・2	スタッフ募集のお知らせ				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(30分)		
	3・4	転任のあいさつ				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(30分)		
	5・6	ホテルの仕事				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(30分)		
	7・8	台風情報				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(30分)		
	9・10	就職活動				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(30分)		
	11・12	苦労した5年間				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(30分)		
	13・14	オオカミと生態系				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(30分)		
	15・16	取引先で				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(30分)		
	17・18	食べ放題				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(30分)		
	19・20	満員電車				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(30分)		
評価方法	(1)中間試験(筆記)を1回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎		◎				50%
	中間試験	◎		◎				50%
履修上の注意	出席が14 回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。							

科目名	日本事情											
科目名(英)												
単位数	1単位		時間数		15時間		担当者		村上・柴藤			
実施年度	2021年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	日本語科(1年)1年											
授業概要	日本の社会や文化を多角的にとらえ、自国と比較しながら身近な話題として疑似体験します。											
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○		○		日本の社会や文化について自分の国と比較することができる。						
				○		積極的にタスクに関わり、ペアやグループで話し合ったり発表したりできる。						
テキスト・教材 参考図書	佐々木瑞枝 『クローズアップ日本事情15』 ジャパンタイムズ											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	ユニット4 いただきます！					授業終了時に示す課題を行うこと(1時間)					
	2	ユニット5 季節を楽しむ年中行事					授業終了時に示す課題を行うこと(2時間)					
	3	ユニット6 知っておきたい日本の歴史					授業終了時に示す課題を行うこと(3時間)					
	4	ユニット7 伝統文化体験					授業終了時に示す課題を行うこと(4時間)					
	5	ユニット8 現代文化とポップカルチャー					授業終了時に示す課題を行うこと(5時間)					
	6	ユニット11 地球のためにできること					授業終了時に示す課題を行うこと(6時間)					
	7	ユニット15 多文化共生社会を目指して					授業終了時に示す課題を行うこと(7時間)					
	8	まとめ					授業終了時に示す課題を行うこと(8時間)					
評価方法	(1)課題を数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
			言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	評価割合
	課題		◎		◎				◎			100%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。											

科目名	ディスカッション＆ディベート						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	15時間		担当者	村上・柴藤
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	日本語科(1年)1年						
授業概要	正しい言葉と文型を使って、他の人の心情に配慮しながら、適切に自分の意見や主張を伝えることができるようになることを目指します。						
授業形式	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標	
	○	○		○		相手や場の状況に応じて、適切な語彙や表現を使うことができる。	
	○	○		○		最近メディアで話題になっていることについて質問したり意見を言ったりすることができる。	
	○	○		○		関心ある話題の議論や討論に参加して、意見を論理的に述べることができる。	
テキスト・教材 参考図書	テキストは使用しません。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリンピックについて①				授業前、授業後の課題に取り組むこと(30分)	
	2	オリンピックについて②				授業前、授業後の課題に取り組むこと(30分)	
	3	教育について①				授業前、授業後の課題に取り組むこと(30分)	
	4	教育について②				授業前、授業後の課題に取り組むこと(30分)	
	5	コミュニケーションについて①				授業前、授業後の課題に取り組むこと(30分)	
	6	コミュニケーションについて②				授業前、授業後の課題に取り組むこと(30分)	
	7	マナーについて①				授業前、授業後の課題に取り組むこと(30分)	
	8	マナーについて②				授業前、授業後の課題に取り組むこと(30分)	
評価方法	(1)授業の中でディスカッションを4回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	ディスカッション	◎	◎		◎		100%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	日本語試験対策B											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		40時間		担当者		村上・柴藤			
実施年度	2021年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	日本語科(1年)1年											
授業概要	JLPT N2に合格することを目指します。											
授業形式	講義：○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
						日常的な場面で使われる日本語に加え、より幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。						
テキスト・教材 参考図書	国書日本語学校編『N2予想問題集改訂版』国書刊行会 2016年											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1~2	漢字読み・表記/聴解(課題理解)					授業の前に指定された範囲をしておくこと(1時間)					
	3~4	語形成・文脈規定/聴解(課題理解)					授業の前に指定された範囲をしておくこと(1時間)					
	5~6	言い換え類義・用法/聴解(ポイント理解)					授業の前に指定された範囲をしておくこと(1時間)					
	7~8	文の文法/聴解(ポイント理解)					授業の前に指定された範囲をしておくこと(1時間)					
	9~10	文章の文法/聴解(概要理解)					授業の前に指定された範囲をしておくこと(1時間)					
	11~12	内容理解(短文)/聴解(概要理解)					授業の前に指定された範囲をしておくこと(1時間)					
	13~14	内容理解(中文)/聴解(即時応答)					授業の前に指定された範囲をしておくこと(1時間)					
	15~16	統合理解/聴解(即時応答)					授業の前に指定された範囲をしておくこと(1時間)					
	17~18	主張理解/聴解(統合理解)					授業の前に指定された範囲をしておくこと(1時間)					
	19~20	情報検索/聴解(統合理解)					授業の前に指定された範囲をしておくこと(1時間)					
評価方法	(1)中間試験(筆記)を1回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
			言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	評価割合
	定期試験		◎		◎							50%
	中間試験		◎		◎							50%
履修上の注意	出席が14回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。											